

第62回PT国試 5択20問 + 解答・復習シート

2027年2月21日（日）実施予定 | 学習用オリジナル問題

目的	一般問題10問 + 症例・実地問題を意識した10問で、弱点領域を確認します。
使い方	20問を解く → 採点する → 誤答理由を記録する → 翌日以降に再テストします。
注意	この20問は実際の国家試験問題ではありません。正答率のみで合否判定はできません。
記事	https://rehabilikunblog.com/pt-predicted-questions/

学習フロー

1	問題を解く	解答用紙に1～5を記入
2	採点する	解答・要点で確認
3	原因を分ける	知識不足 / 混同 / 症例判断 / 計算など
4	復習する	該当領域の記事・教科書へ戻る
5	再テスト	翌日～数日後に根拠まで説明

一般問題 | Q1 ~ Q5

Q1. 前脛骨筋を支配する末梢神経はどれか。

1. 大腿神経
2. 脛骨神経
3. 深腓骨神経
4. 浅腓骨神経
5. 腓腹神経

Q2. COPDにみられやすい呼吸機能検査所見はどれか。

1. 1秒率の上昇
2. 1秒率の低下
3. 残気量の低下
4. 全肺気量の著明な低下のみ
5. 気道抵抗の低下

Q3. 右中殿筋の筋力低下がある患者が右下肢で片脚立位を行った。最もみられやすい所見はどれか。

1. 右骨盤が拳上する
2. 左骨盤が下制する
3. 左膝関節が過伸展する
4. 右足関節が底屈する
5. 左肩甲帯が下制する

Q4. 上位運動ニューロン障害でみられやすい所見はどれか。

1. 線維束性収縮
2. 深部腱反射の亢進
3. 高度な筋萎縮の早期出現
4. 深部腱反射の消失
5. 末梢神経支配に一致した弛緩性麻痺

Q5. ICFの「活動」に分類されるものはどれか。

1. 膝伸展筋力
2. 膝関節軟骨の変性
3. 階段を昇降すること
4. 会社員として職場復帰すること
5. 自宅玄関に設置された手すり

一般問題 | Q6 ~ Q10

Q6. Timed Up & Go Test (TUG) で、椅子から立ち上がった後に歩く標準的な距離はどれか。

1. 1m
2. 2m
3. 3m
4. 5m
5. 10m

Q7. 徒手筋力検査で、重力を除いた肢位で全可動域を運動できる場合の筋力段階として最も適切なのはどれか。

1. 0
2. 1
3. 2
4. 3
5. 4

Q8. 運動療法中の呼吸困難の主観的強度を確認する尺度として適切なものはどれか。

1. Borg scale
2. Brunnstrom stage
3. Glasgow Coma Scale
4. Modified Ashworth Scale
5. Functional Reach Test

Q9. Parkinson病で主に変性する部位はどれか。

1. 小脳虫部
2. 黒質緻密部
3. 視床下部
4. 海馬
5. 延髄錐体

Q10. 変形性膝関節症の単純X線画像でみられやすい所見はどれか。

1. 関節裂隙の狭小化
2. 関節裂隙の均一な拡大
3. 骨端線の再出現
4. 骨皮質の完全消失
5. 大腿骨頭の扁平化

症例・実地問題 | Q11～Q15

Q11. 68歳男性。脳梗塞後の右片麻痺がある。歩行では右遊脚期に足関節底屈位が残り、つま先を床に引っかけることが多い。装具で直接補助する機能として最も適切なのはどれか。

1. 股関節内転補助
2. 膝関節屈曲制限
3. 足関節背屈補助
4. 足趾屈曲補助
5. 骨盤後傾補助

Q12. TUGを1週間隔で再評価した。初回はT字杖を使用した、2回目は杖を使用せず測定した。結果を比較するときに最も問題となるのはどれか。

1. 歩行距離が短すぎる
2. 補助具の条件が統一されていない
3. 椅子から立ち上がっている
4. 方向転換を含んでいる
5. 測定値を秒で記録している

Q13. 78歳女性。背臥位で血圧132/76mmHg。立位2分後に108/68mmHgとなり、ふらつきを訴えた。この所見の解釈として最も適切なのはどれか。

1. 血圧変化は起立性低血圧の基準に該当しない
2. 収縮期血圧の低下から起立性低血圧が疑われる
3. 拡張期血圧が上昇しているため運動を継続する
4. 心拍数の情報がないため血圧測定には意味がない
5. 症状があっても3分以上立位を継続してから判断する

Q14. 心不全患者が歩行練習中に新たな胸部不快感と著明な呼吸困難を訴えた。最初の対応として最も適切なのはどれか。

1. 予定時間まで歩行を継続する
2. 歩行速度だけを上げる
3. 運動を中止し、症状とバイタルを確認する
4. 水分摂取のみを促して再開する
5. 症状を記録せず次回評価時まで経過を見る

Q15. Parkinson病患者。病室内では歩けるが、狭い出入口を通過するときにすくみ足が出現する。介入として検討しやすいのはどれか。

1. 床面の視覚的な目印を利用する
2. 歩行中は常に閉眼させる
3. 歩幅をさらに小さくするよう指示する
4. 歩行練習をすべて中止する
5. 必ず二重課題を加える

症例・実地問題 | Q16～Q20

Q16. 72歳女性。変形性膝関節症があり、最近活動量が低下している。安静時の強い疼痛や急性炎症所見はない。運動療法として最も適切なものはどれか。

1. 症状に関係なく高衝撃運動のみを行う
2. 運動を完全に禁止する
3. 症状を確認しながら筋力訓練や有酸素運動を段階的に行う
4. 膝関節周囲筋の評価を行わずストレッチのみを行う
5. 疼痛が少しでもあれば長期間の安静を指示する

Q17. 第6頸髄節（C6）レベルの機能を確認するうえで、特に重要な運動はどれか。

1. 肘関節伸展
2. 手関節伸展
3. 手指屈曲
4. 手指外転
5. 足関節背屈

Q18. COPD患者の歩行練習中、SpO₂が安静時97％から82％へ低下し、著明な呼吸困難も出現した。対応として最も適切なものはどれか。

1. 予定距離までそのまま歩行を継続する
2. 歩行速度を上げて早く終了させる
3. いったん運動負荷を中止または低下させ、状態を再評価する
4. SpO₂を確認せず自覚症状だけで継続を決める
5. 医師の指示を確認せず酸素流量を自由に変更する

Q19. FIMのベッド・椅子・車椅子移乗を評価する。患者への身体的接触は必要ないが、安全確認のため介助者がそばで見守る必要がある。最も適切な得点はどれか。

1. 3点
2. 4点
3. 5点
4. 6点
5. 7点

Q20. 10m歩行路の中央6mを計測区間とした。6mの所要時間は4.8秒であった。歩行速度はどれか。

1. 0.80m/s
2. 1.00m/s
3. 1.20m/s
4. 1.25m/s
5. 1.60m/s

解答用紙

20問を解き終えてから、後ろの解答・要点ページで採点してください。

問題	自分の解答	判定	再テスト	メモ
Q1				
Q2				
Q3				
Q4				
Q5				
Q6				
Q7				
Q8				
Q9				
Q10				
Q11				
Q12				
Q13				
Q14				
Q15				
Q16				
Q17				
Q18				
Q19				
Q20				

解答・要点 | Q1～Q10

問題	正答	領域	要点
Q1	3	解剖学・末梢神経	前脛骨筋は深腓骨神経の支配を受け、足関節背屈に作用する。
Q2	2	呼吸生理	COPDでは閉塞性換気障害により1秒量が低下し、1秒率も低下する。
Q3	2	運動学	支持側の右股関節外転筋が骨盤を保持できないと、遊脚側である左骨盤が下制する。
Q4	2	神経学	上位運動ニューロン障害では深部腱反射亢進や病的反射がみられやすい。
Q5	3	ICF	階段昇降は課題の遂行にあたり「活動」。筋力は心身機能、職場復帰は参加、手すりは環境因子。
Q6	3	TUG	TUGは椅子から立ち上がり、3m歩いて方向転換し、戻って着座する時間を測定する。
Q7	3	MMT	重力を除いた条件で全可動域を動かせる場合はMMT 2。重力に抗して全可動域なら3。
Q8	1	呼吸・運動負荷	Borg scaleは自覚的運動強度や呼吸困難の評価に用いられる。
Q9	2	Parkinson病	Parkinson病では黒質緻密部のドパミン作動性神経細胞の変性が主要病態。
Q10	1	変形性膝関節症	変形性膝関節症では関節裂隙狭小化や骨棘形成などが代表的。

解答・要点 | Q11～Q20

問題	正答	領域	要点
Q11	3	脳卒中・装具	遊脚期の底屈残存によるつま先クリアランス低下には足関節背屈方向の補助を検討する。
Q12	2	再評価・測定条件	経時比較では補助具、履物、椅子などの測定条件を可能な限り統一する。
Q13	2	起立性低血圧	立位2分で収縮期血圧が24mmHg低下しており、起立性低血圧が疑われる。症状があれば安全確保を優先する。
Q14	3	心不全・安全管理	新たな胸部症状や著明な呼吸困難では運動を中止し、症状・バイタルを確認する。
Q15	1	Parkinson病・歩行	すくみ足では視覚的キューや聴覚的キューが有効な場合があり、個別に反応を確認する。
Q16	3	変形性膝関節症	変形性膝関節症では症状と身体機能に合わせ、筋力訓練や有酸素運動を段階的に行う。
Q17	2	脊髄損傷	C6では手関節伸展が重要。肘伸展は主にC7、手指屈曲はC8、手指外転はT1。
Q18	3	COPD・安全管理	SpO2の大幅低下と著明な呼吸困難があれば、負荷を中止または低下し再評価する。
Q19	3	FIM	身体的介助は不要でも、見守り・準備が必要な場合はFIM 5点。
Q20	4	歩行速度	歩行速度 = 距離 ÷ 時間。6 ÷ 4.8 = 1.25m/s。

弱点記録・再テスト

誤答だけでなく、正解しても根拠を説明できなかった問題も記録します。

問題	領域	誤答理由	復習内容	再テスト
Q1	解剖学・末梢神経			
Q2	呼吸生理			
Q3	運動学			
Q4	神経学			
Q5	ICF			
Q6	TUG			
Q7	MMT			
Q8	呼吸・運動負荷			
Q9	Parkinson病			
Q10	変形性膝関節症			
Q11	脳卒中・装具			
Q12	再評価・測定条件			
Q13	起立性低血圧			
Q14	心不全・安全管理			
Q15	Parkinson病・歩行			
Q16	変形性膝関節症			
Q17	脊髄損傷			
Q18	COPD・安全管理			
Q19	FIM			
Q20	歩行速度			

誤答理由の例：知識不足／似た用語と混同／症例判断／計算／読み違い／その他